

自立と社会参加をめざして

1 基本的な考え

小学校特殊学級と中学校養護学級では、児童・生徒たちが、将来生活していく社会の中で豊かにたくましく生きていく力を培うことが大切であると考えます。そこでそれぞれの時期に次のようなことを大切に教育を進めています。また、それに合わせ具体的な姿を次のように考えています。

校区分	基本方針とめざす姿
小学校	<p>社会参加の基盤となる基本的な生活習慣や技能の獲得をめざすとともに、子どもたちが自分で取り組む学校生活を大切に、自立的・主体的に生きる子どもを育成する。</p> <p>○ 身の回りのことは自分で取り組もうとする姿 ○ 活動に対し見通しをもって自分から取り組もうとする姿 ○ 自ら友だちや教師との関わりを楽しもうとする姿 ○ 自分のもっている知識・技能をよりよく伸ばそうとする姿</p>
中学校	<p>生徒たちが社会の一員として自立した生活を営むための全人的な発達を図り、最大限の自己実現をめざす。</p> <p>○ 自分の持っている能力を最大限に活用しようとしている姿 ○ 他人からの最小限の援助を受けながら、共に生きようとする姿 ○ できるようになったことを、実際の生活で実行しようとする姿 ○ 地域社会や人との関わりの中で、できることを増やそうとしている姿</p>

※ ここでいう自立とは、自分でできるようになる(=自活)ことではなく、できるようになったことを生活の中で実践し、自分の生活の質を向上させていくことと考えています。

2 自立し社会参加していくための必要な力

児童・生徒が、自立し社会参加していくために必要な力を、次の3つと考えています。

共生する力	人を大切にしていこうとする生き方を考え、他者を理解しようとし、共に関わりながら支えあって生きていこうとする力
問題を解決する力	地域社会で他者と共に生きる中で、社会生活をおくる上での課題を発見し、主体的に解決しようとする力
自分づくりの力	自分の行動を振り返り次はどうすべきかを考えたり、一人ではできないことでも必要な援助を受けたりしながら他と共に実現していこうとする力

3 「自立し社会参加していくための力」を育むための観点

力	観 点	指導の具体的な観点
共生する力	○対人関係 ○集団参加 ○意志伝達力 ○挨拶やマナー	・友だちや身近な人 ・参加 ・話す ・挨拶、礼儀 ・地域社会 ・役割理解 ・書く ・安全 ・マナー
問題を解決する力	○情報処理力 ○判断・行動力 ○言語・数量 ○作業技能	・聞く ・読む ・選択する ・決められたことをする ・めあてに向かって行動する ・表出言語 ・理解言語 ・数量 ・作業知識 ・作業技能
自分づくりの力	○日常生活 ○自己評価力 ○情緒の安定 ○余暇・進路	・身辺処理 ・自己記録 ・自己統制 ・余暇の過ごし方 ・体力、健康 ・自己観察 ・自己理解 ・職業(職場実習態度) ・家庭生活技能 ・自己評価

4 個別の指導票・個別の指導計画（学習面・生活面）・個別の教育支援計画

上記の観点をもちながら、児童・生徒一人一人に合わせ、次のような指導票、指導計画、教育支援計画を作成し、指導にあたるようにしている。

児童の教育的ニーズ，個への支援・指導票

児童氏名		作成者名	
学年等	年 組 () 才	作成期日	平成 年 月 日
児童の将来像に関する保護者・児童の思い・願い			
観点	児童の現在の様子	児童の教育的ニーズ	指導方法・内容・場
共生する力	対人関係		
	集団参加		
	意思伝達		
	挨拶規律		
問題解決する力	情報処理		
	判断行動		
	言語数理		
	作業技能		
自分づくりの力	日常生活		
	自己評価		
	情緒内面		
	余暇活動		
全体像	総合的にみて		

※ 保護者や児童・生徒の思いや考えを取り入れて、作成していく。

※ 特に問題・課題と感ずる点について記入していき、その後の経過を見て、加筆・修正していく。

様式1

個別の教育支援計画（学習面）

平成 年度 月～ 月 氏名 ()才

学習重点目標 年度				
設定理由 (児童の目下から)				
保護者の願い	目標に対して	学年	学期	学期
担任の願い	目標に対して	学年	学期	学期
支援者の願い	目標に対して	学年	学期	学期
申請日 () 学期				
学習における支援と評価				
短期目標	()月	()月	()月	()月
学習場面 〇〇H 等々 支援・手立て				
評価				
今後の課題				
	記入日		記入日	

様式2

個別の教育支援計画（生活面）

平成 年度 月～ 月 氏名

学習重点目標 年度				
設定理由 (児童の目下から)				
保護者の願い	目標に対して	学年	学期	学期
担任の願い	目標に対して	学年	学期	学期
支援者の願い	目標に対して	学年	学期	学期
申請日 () 学期				
学習における支援と評価				
短期目標	()月	()月	()月	()月
生活場面 基本的生活習慣 31257-312 基本生活・手立て				
評価				
今後の課題				
	記入日		記入日	

- ※ 児童・生徒の実態によっては、学期や前・後期のスパンで、短期目標や支援を考えていく。
- ※ 学期の終わりには、次学期の指導の重点等を保護者と確認する。

様式3

個別の教育支援計画（支援該当児童カルテ）

よりがな氏名				生年月日	平成 年 月 日	()才	性別	
学年	担任氏名	支援者氏名	支援開始年月	平成 年 月 年助				
支援理由								
支援目標	年間重点目標							
	中期目標							
	短期目標							
支援経過								
今後の支援の見通しと課題								
これまでの成長のあしあと								
家族構成	姓	氏名			就学歴			
	期日	場所	相談内容等		児童期	乳児期	幼児期	
教育歴				生育歴				
				学習及び発達				
気づき	日常生活	対人関係				学習及び発達		
	記入日		記入日		記入日		記入日	

- ※ 様式3の教育支援計画については、通常の学級在籍の支援該当児童・生徒に対し、現在は小・中それぞれに校内委員会を組織し、適切な支援に向けて、使用しているものである。

5 附属学校園における特別支援教育の現状

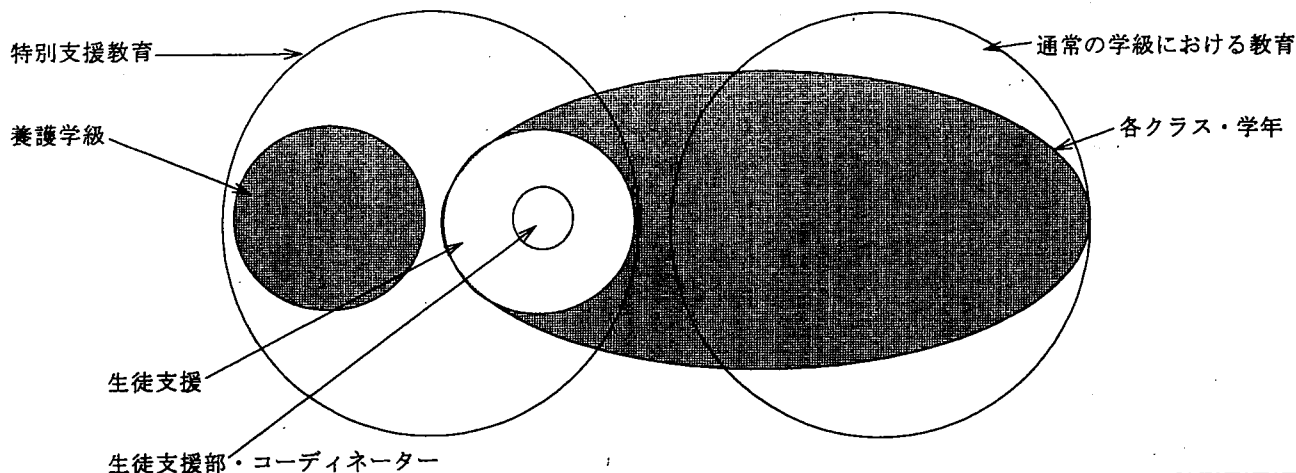
現在特殊学級・養護学級に在籍する児童・生徒には、このような指導票や指導計画を用いながら、一人一人の教育的ニーズに応じた教育を実践している。これらを一人一人のファイルに綴りながら、実践を積み上げていくことで、一人一人の児童・生徒に対して、自立と社会参加に向けた力を、一貫してしっかりと身につけさせることができると考えている。

また、今後は、通常の学級に在籍する児童・生徒への特別支援教育について、幼稚園・小学校・中学校の附属学校・園における特別支援教育を再構築していくことが急務になると考えている。

以下本稿では、現在の附属学校・園での特別支援教育体制イメージ図を載せている。これを基に、一貫教育の全体像に照らし合わせながら、附属学校・園の特別支援教育について、現在検討中である。

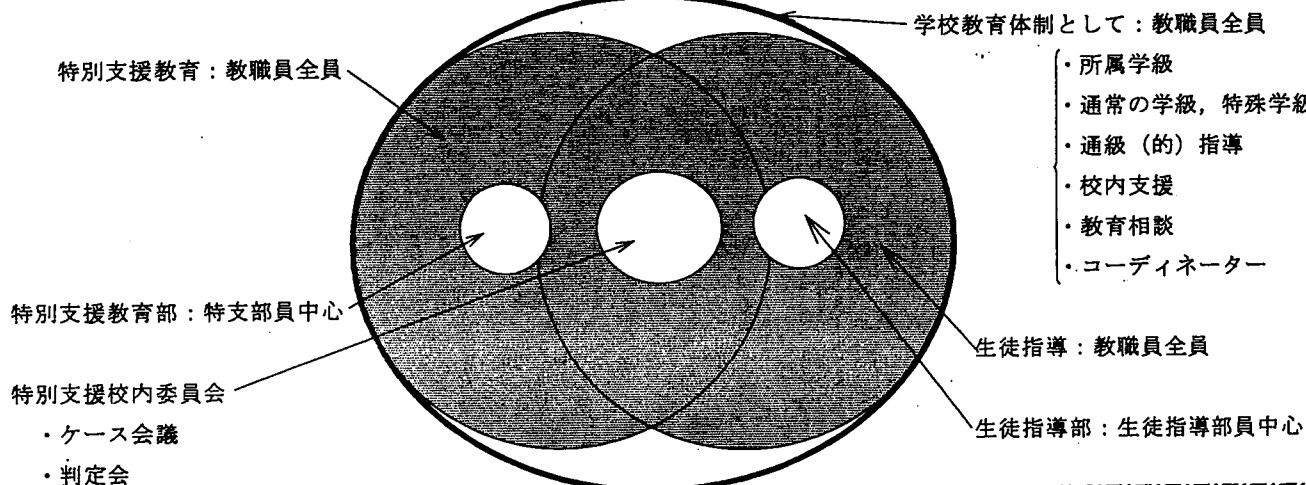
附属学校園における現在の特別支援（学校教育）体制イメージ図

【附属中学校の体制】



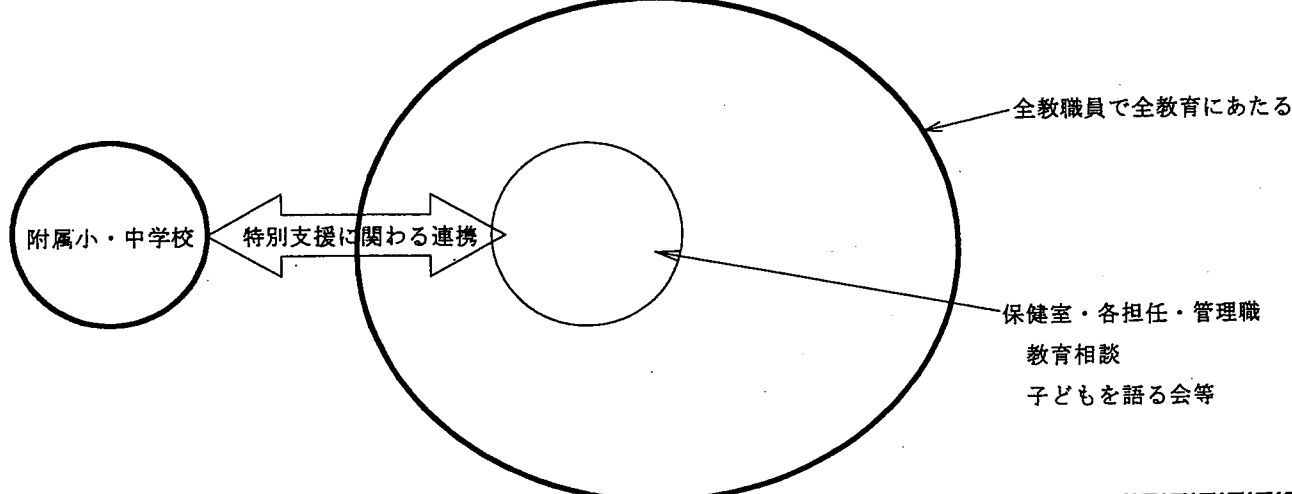
* 特別支援教育と通常の学級における教育を別のものととらえ、通常の学級における学習面や生徒指導面に課題のある生徒に対し、特別支援教育の該当として考える。その中核をなすのが生徒支援部であり、特別支援コーディネーターの役割である。

【附属小学校の体制】



* 特別支援と生徒指導は別のものであり、特別支援教育は、あくまでも、障害に起因する児童に対しての個の教育的ニーズに応じた指導を行うものである。ただし、双方とも全教員で取り組むべきものであることから、それぞれの視点で見つめながら、密接な連携を図り、実践していく必要がある。

【附属幼稚園の体制】



* 全ての園児に対し、全教職員で共通理解を図る。特別支援に関わっては、保健室中心に小・中と連携をとり、対応する。